

参考様式B4(自己評価等関係)

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年4月19日

事業所名 凜守山

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			支援室が広いため、十分なスペースが確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			玄関にスロープを置き、トイレには手すりを設置している。 支援室・トイレには段差がなく、車いすも問題なく入ることができる。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○			常勤職員のみで行うことが多いため、職員全員が参画できるように場を設けていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所玄関に掲示し、ホームページにも掲載している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		第三者の評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			月1回行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員全員で意見を出し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○				習慣化したいプログラムは固定化している。 コロナウイルスが落ち着けば、外での活動を増やしたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			季節に合わせての行事を取り入れている。	休日・長期休みは保護者さまのニーズに合わせ昼食の活動が多いため、同日に他の活動も取り入れていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援前に申し送りをしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			支援後は送迎で全員が揃うのが難しいため、翌日に実施している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			個別に記録を残し、必要に応じて検証・改善をしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○				

	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>				
関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	<input type="radio"/>			学校ホームページにて下校時刻や行事などを確認している。 その他は送迎時に都度確認している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	<input type="radio"/>			主治医からの指示書をいただき、保護者さまと対応の方法を決めている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			<input type="radio"/>	相談支援員からの情報共有のみが多いため、必要に応じて行いたい。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	<input type="radio"/>				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>			必要に応じて連絡をしている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			<input type="radio"/>	コロナ渦のため現状では難しい。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	<input type="radio"/>				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>			連絡帳や送迎時にお話している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		<input type="radio"/>		相談や質問等があれば個別にアドバイスをしている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>			契約時と、質問があれば都度説明を行っている。	
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>			送迎時・モニタリング時や、相談があれば都度対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			<input type="radio"/>	交流の場が欲しいとお聞きしているので、コロナウィルスが落ち着けば交流できる機会を設けたい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>			苦情があった場合は迅速に対応している。 記録に残し共有できるようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>			活動・行事予定はおたより、メイルからも確認でき、ホームページに行事の様子を載せていく。	
	35	個人情報に十分注意している	<input type="radio"/>				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			<input type="radio"/>	コロナ渦のため現状では難しいが、散歩などに出て近隣住民の方にお会いした際に積極的に挨拶や会話をしている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		<input type="radio"/>		緊急対応マニュアルは年度初めに保護者さまに確認している。	防犯・感染症対応マニュアルは周知できるようにしたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>			半年に1回、活動に取り入れ訓練を行っている。	訓練を行う曜日が偏っており全員が実施できていないため、今後は半年に1回、週単位での訓練を行いたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	<input type="radio"/>				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			<input type="radio"/>		現在は対象者がいないため、ご利用があれば指示書を基に対応をしていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>			月ごとに事例をまとめ、職員全員に周知し、再発防止に努めている。	